

Title	癌と人 第18号 目次
Author(s)	
Citation	癌と人. 1991, 18
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23960
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

第18号 目次

• ごあいさつ.....	1
熊谷 信 昭	
• インフォームド・コンセント.....	3
(説明と同意) 田口 鐵 男	
• 癌と死.....	6
太田 和 雄	
• がん患者と Quality of life	9
古江 尚	
• 癌とホルモン.....	11
松本 圭 史	
• 癌の増加に抵抗しよう.....	14
豊島 久真男	
• がんと薬.....	16
倉田 義 昭	
• 平成2年度事業報告.....大阪癌研究会...	20
• 財団法人大阪癌研究会寄附行為.....	22
• 本会役員・評議員・賛助会員名簿.....	25
• 平成2年度寄附者御芳名.....	29
• 集団検診(乳がん, 便潜血反応検査による 大腸がん)のお知らせ.....	29

◎ 題 字 ◎

財団法人 大阪癌研究会
前理事長 川 勝 傳
(前南海電気鉄道株式会社取締役会長)



* 表紙絵解説

「蟹」のいわれ

蟹の絵は川俣順一大阪大学名誉教授にお願いして描いてもらったものである。

癌に関係ある学会のシンボルマークに蟹の図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代にさかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著述のところどころに、今日私どもがいう癌と思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスというのは日常一般に用いられていた言葉で、蟹のことである。ヒポクラテスが記述しているという病気(癌)の格好が蟹に似ていたのをそれを呼び名とした。

今日、欧米では日本でいう癌をカルチノーマと呼んでいる。それはカルキノスという言葉からきたもので、両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス(蟹)という日常語を純然たる医学語とした人である。癌と蟹の関係はそれ以来続いている。